学校番号	201

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説世界史Ｂ　改訂版」（山川出版社）						
副教材等	アカデミア世界史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、原始古代から現在に至る世界の歴史を学びます。歴史に対する知識ばかりではなく、歴史的な思考力や洞察力を養うことを目標にしています。そのため、人名や事件名・概念などの歴史用語を覚えることは重要ですが、それらを単に一問一答式に暗記することにとどまるのではなく、歴史事象の背景やその結果と影響などを総合的に理解・考察することが大切です。

また同じ地理歴史科の日本史・地理との関連も重視されています。日本史と世界史を別々にとらえるのではなく、世界の動向が日本の歴史と文化の展開にどのような影響を与えてきたかについて考察する必要があります。地理との関連では、歴史的事象を考察する際に、「いつ」だけでなく「どこで」という場所の把握が大切であり、歴史上の出来事の舞台となった諸地域について地図や領域図の活用を図りながら学習することが必要になります。加えて歴史的事象や概念について、現代とは異なる時代の固有の特徴をとらえ、歴史的想像力を養うため、史資料に触れることも重要な機会です。そのため、歴史の学習では、教科書の内容把握にとどまることなく、資料集などの統計資料や地図資料、史料の抜粋の読解、新聞記事など、教科書以外の副教材も活用して広い視野から歴史を考察する必要があります。また授業のほかでも普段から、日本と世界の時事問題に関心をもち、「なぜ」という視点をもってその歴史的背景を調べようとする姿勢が大切です。

この授業を通して、国際化のすすむ現在において必要な知識・教養を身につけるとともに、過去の出来事を分析し、現在や未来に結び付けて物事を考察する力を養ってほしいと思います。

2　学習の到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	授業プリント ワークシート 発問評価 授業態度	定期考査 授業プリント ワークシート 発問評価	定期考査 授業プリント ワークシート	定期考査 小テスト 発問評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	世界史への扉	①気候変動と私たち人類の生活 ・気候変動という地球的現象を歴史的に考察し，人類の生活形態や行動様式に大きな影響を与えてきたことに気付く。 ②漂流民のみた世界 ・外国の様子を直接見聞した漂流民の活動から，日本と世界の接触・交流の具体的様相，および日本史と世界史との密接な繋がりに気付く。 ③砂糖からみた世界の歴史 ・砂糖という身近な日常品の歴史を辿ることから，世界史の諸問題がとらえられることに気付く。	○ ○ ○	○	○	○	a:自然環境と歴史、日本史と世界史のつながり、身近で日常的な事柄と世界史とのつながりに関わる主題を意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b:設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:設定された主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:設定された主題について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	ワークシート 発問評価 授業態度
一学期	序章　先史の世界	人類が自然環境に適応しながら進化し，農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に，人類と言語の分化を理解する。	○			○	a:人類の進化とその特徴について，関心を持って学習しようとしている。文明の特徴を理解し，人種や民族，語族といった概念を関心を持って学習しようとしている。 b:人類の進化の過程，農耕・牧畜の開始の意義などを，多角的に考察し，文章にまとめる。人種や民族といった分類を，偏見なく客観的に判断し，文章にまとめる c:進化図や道具図，洞穴絵画などの図版や写真，教科書に掲載されている諸言語の系統分類表を適切に活用している。 d:　人類の進化，文明の成立，人類と言語の分化に関する基本的な知識を身につけている。	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

一学期	第1章 オリエントと地中海世界	1. 古代オリエント世界 西アジア世界の地理的特質を把握し，オリエント文明の盛衰，イラン人の活動を理解する。 2. ギリシア世界 地中海一帯の地理的特質を把握し，エーゲ文明，ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 3. ローマ世界 都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	○	○ ○	○	○ ○ ○	a:古代オリエント、ギリシア、ローマの諸文明の特質について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:古代オリエント、ギリシア、ローマの諸文明が後の世界に与えている影響の大きさについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:教科書に掲載されている各文明の遺跡などの写真・資料・図版・地図などを適切に活用している。 d:西アジア世界と地中海一帯の地理的特質、諸文明の形成と交流、古代帝国の発展、キリスト教について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度
一学期	第2章 アジア・アメリカの古代文明	1. インドの古典文明 南アジアの地理的特質を把握し，インド文明の成立と発展，独自の宗教・社会制度など，南アジア世界の形成過程を理解する。 2. 東南アジアの諸文明 東南アジアの地理的特質を把握し，東南アジア世界における国家形成の過程を理解する。 3. 中国の古典文明 東アジアの地理的特質を把握し，中国文明の起源，殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。 4. 南北アメリカ文明 先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	○ ○	○ ○	○	○ ○ ○	a:アジア・アメリカの古代文明の特質について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:アジア・アメリカの古代文明の特質、文明の形成発展の過程、後の世界に与えている影響の大きさについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:教科書に掲載されている各文明の遺跡などの写真・資料・図版・地図などを適切に活用している。 d:南アジア・東南アジア・東アジアの地理的特質を把握し、南アジア・東南アジア・東アジア・南北アメリカの諸文明の形成と特色、南アジア世界独自の宗教・社会制度、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向を理解し、基本的な知識を身につけている。	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

一学期	第3章　内陸アジア世界・東アジア世界の形成	1．草原の遊牧民とオアシスの定住民 2．北方民族の活動と中国の分裂 3．東アジア文化圏の形成	○	 ○ ○	 ○	○ ○ ○	a:次の事柄について意欲的に学習しようとしている。 騎馬遊牧民の活動とオアシス民の生活との比較、北方諸民族の王朝と漢族の王朝の興亡、隋唐帝国の成立とその役割及び日本など隣接諸国の動向 b:騎馬遊牧民の動向、魏晋南北朝時代の社会経済の変化，日本など周辺国家の形成、唐王朝の国家制度や文化について考察し、適切に表現している。 c:教科書に掲載されている地勢図や諸王朝の領域図、王朝の系統図を適切に活用している。唐王朝の国際性を示す資料・正倉院の資料などから、文化の密接な交流の例を調べている。 d:内陸アジアの地理的特質、遊牧民とオアシス民の活動についての基本的知識を身につけている。遊牧民の華北進出と定住化，均田制などの新しい制度のしくみ、唐帝国の国家制度や文化，日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向について、基本的な知識を身につけている。	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

一学期	第4章　イスラーム世界の形成と発展	1. イスラーム世界の形成 2. イスラーム世界の発展 3. インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4. イスラーム文明の発展	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について意欲的に学習しようとしている。 ムハンマドの活動やイスラーム教の特質、イスラーム帝国の統治システム、イスラーム世界の分裂と変容の過程、ムスリム商人が築いた海域・内陸のネットワーク、インドや東南アジア, アフリカのイスラーム化とその地域に与えた影響、イスラーム文明の具体的な影響や役割、形成されたネットワークの意義について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 イスラーム教の成立、アラブ帝国とイスラーム帝国の差異、イスラーム世界の拡大と変容、経済の発展について考察し、表現する。インドや東南アジアなど諸地域世界のイスラーム化の現代への影響、イスラーム世界の統一性が守られてきた理由 c. 教科書に掲載されているイスラーム以前の西アジアの地図やイスラーム世界の領域図, モスクなどの写真、イスラーム世界の地図, マムルークの図版、インドや東南アジアへのイスラームの伝播を示す地図、アフリカのイスラーム化に関する地図や図版、イスラームの生活を理解する図版・写真、音楽やミニアチュールなどを適切に活用している。 d. 次の事柄ついて基本的な知識を身につけている。 イスラームの特質やその形成過程、征服活動、イスラーム法に基づくアッバース朝の国家体制、トルコ系民族を軸としたイスラーム世界の諸地域における発展、ムスリムの交易活動、諸地域世界のイスラーム化の過程、ムスリム商人やスーフィー教団の果たした役割、イスラーム文明の特質、その学問と文化活動について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

一学期	第5章　ヨーロッパ世界の形成と発展	１．西ヨーロッパ世界の成立 ２．東ヨーロッパ世界の成立 ３．西ヨーロッパ中世世界の変容 ４．西ヨーロッパの中世文化	 ○ 	 ○ ○	○ 	○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について関心を持って学習しようとしている。 ・フランク王国とローマ教皇の提携の意義、ノルマン人などの諸民族侵入の影響、ビザンツ帝国の特色とスラヴ人など周辺民族の活動、西欧の中世都市の発展や封建社会の変容過程、中世西欧諸国の政治・社会の動向、中世文化の特色とキリスト教会の果たした役割について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・ゲルマン人、イスラーム勢力と地中海世界の解体、封建社会の仕組みとローマ教皇権の発展、ビザンツ帝国の発展とスラヴ人との関係、封建社会の変容と国王による中央集権化、商業の発展や自治都市形成と封建社会の衰退・中世ヨーロッパ文化と修道院運動やイスラーム文明の影響 c.　教科書に掲載されている地勢図やフランクやビザンツ帝国の領域図、諸民族の移動図、荘園の構造などの概念図や王朝系図、法制史料などを適切に活用している。交通路、イコンや絵画・教会などの写真、騎士道物語や農村・都市の生活の様子を示す図版などにより、中世ヨーロッパ社会の特色に触れることができている。 d. 次の事柄について知識を身につけている。 ・封建社会の形成、ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程、十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向、ヨーロッパ中世文化の特色について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

二学期	第6章　内陸アジア世界・東アジア世界の展開	1．トルコ化とイスラーム化の進展 2．東アジア諸地域の自立化 3．モンゴルの大帝国	○	 ○	 ○ 	○ ○ ○	a. 次の事柄について関心をもって学習しようとしている。 ・トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動の世界史的影響、中国周辺諸国の変化、契丹や女真と宋の政治的・軍事的対立と交流、宋代の産業や文化の発展、モンゴル帝国のネットワークとその影響、モンゴル時代の中国と日本との交易 b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・トルコ民族の内陸アジアにおける台頭とトルキスタンの成立、中国周辺諸国の独自の文化と遊牧諸国家の支配体制の特徴、宋の統治体制とその社会や文化の特色と東アジア文化圏の統合力の変化、社会経済的視点から見たモンゴル帝国のネットワークの意味 c. 教科書に掲載されている中央アジアのトルコ化と東西トルキスタンの地図、諸民族の文字、宋代の社会・文化の特色を示す写真・図版、モンゴル帝国の領域図や帝室の系図・図版・写真など d. 次の事柄について基本的な知識を身につけている。 ・内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展、遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色、モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

二学期	第7章　アジア諸地域の繁栄	１．東アジア世界の動向 ２．清代の中国と隣接諸地域 ３．トルコ・イラン世界の展開 ４．ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	 ○	○ ○ 	○ ○ 	○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について関心をもって学習しようとしている。 ・明朝の経済的繁栄と銀経済の進展、文化活動の特色、日本の鎖国体制の実態、清代とチベットや琉球・日本・朝鮮といった隣接諸地域の動向について ・ティムール朝、オスマン帝国、サファヴィー朝の領域拡大の過程、インドにおけるイスラーム支配とヒンドゥー教徒との融和や対立、イスラームの東南アジアへの浸透やヨーロッパ勢力の進出について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・明朝が築いた冊封＝朝貢体制の変化と東アジア諸国の動向、清朝と周辺諸地域との関係の変化と東南アジアの状況やヨーロッパ勢力の活動との関連、中央アジア・西アジアのイスラーム諸王朝の支配の特色や共通点、ムガル帝国の支配の特色やその政策の変化、ポルトガルやスペインの進出と東南アジア交易世界の発展 c. 教科書に掲載されている明と周辺諸地域図、14～16世紀の東アジア・東南アジア諸国の年表、清と周辺諸地域図、チベットや琉球の図版、オスマン帝国とサファヴィー朝・ムガル帝国の領域図、モスクなどの図版、インドや東南アジアの図版や写真を適切に活用している。 d. 次の事柄について基本的知識を身につけている。 ・明朝の動向と朝鮮や日本など東アジア世界の状況、清朝の領域支配とその社会や文化と東アジア世界の動向、トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向とその社会や文化の特質、南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化，東南アジア交易の発展	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

二学期	第8章　近世ヨーロッパ世界の形成	1．ヨーロッパ世界の拡大 2．ルネサンス 3．宗教改革 4．ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	 ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について関心を持って学習しようとしている。 ・新航路の開拓事業や征服活動と、アメリカ先住民社会の変容や商業革命に関して ・ルネサンス・宗教改革の背景と影響、芸術作品、主権国家体制の形成過程に関して b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・大航海時代と世界の一体化・資本主義経済発達について ・ルネサンスと宗教改革 ・「17世紀の危機」とヨーロッパ諸国の勢力交替、ウェストファリア条約の意義や東ヨーロッパの動向について c. 教科書に掲載されているヨーロッパ人の航路と探検図、世界地図やアステカ征服の図版、ルネサンスの作品群や文化と美術の一覧表、新旧両教派の分布地図や「九十五カ条の論題」などの資料、ヨーロッパ主権国家の領域地図や内乱、戦闘の図版を適切に活用している。 d. 次の事柄について、基本的な知識を身につけている。 ・大航海時代に伴うヨーロッパ社会の変革の動き、ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義、宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応、主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

二学期	第9章　近世ヨーロッパ世界の展開	１．重商主義と啓蒙専制主義 ２．ヨーロッパ諸国の海外進出 ３．17～18 世紀のヨーロッパの文化と社会	○	○	○	○ ○ ○	a. 次の事柄について関心を持って学習しようとしている。 ・イギリス革命、フランスを中心とした国家間の抗争、東ヨーロッパ諸国の台頭、アジア市場とアメリカの植民地をめぐるヨーロッパ諸国の抗争の過程、三角貿易のもたらした国際的な社会・経済の変化、科学革命と啓蒙思想を背景とするヨーロッパの文芸思潮について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・17～18 世紀のヨーロッパ諸国の植民地争奪戦争と重商主義、産業革命の前提条件としての大西洋三角貿易の意義、17～18 世紀におけるヨーロッパ文化の特色について c. 教科書に掲載されている 18 世紀半ばのヨーロッパ諸国の領域図、王家の系図や法制史料、17 世紀半ばのヨーロッパ諸国の植民地をあらわした地図、社会風俗の図版、バロックやロココの美術作品の図版や啓蒙思想家の著作などの史料を適切に活用している。 d. 次の事柄について基本的な知識を身につけている。 ・17～18 世紀におけるヨーロッパ諸国の覇権争い、西ヨーロッパ諸国の経済活動と植民地争奪戦争の状況、大西洋世界における近代分業システムの成立、科学革命や国際法、啓蒙思想、バロックやロココの芸術の具体的事例と、それを生み出した背景や社会状況について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

二学期	第十章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	１．産業革命 ２．アメリカ独立革命 ３．フランス革命とナポレオン	 ○ 	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	a. 次の事柄について関心をもって学習しようとしている。 産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命、アメリカの独立革命とその思想的背景、フランス革命の経済的・思想的背景、ナポレオンの政策と革命の継承点について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・資本主義体制の確立と社会問題・労働問題、アメリカ独立革命における近代市民社会の原理、フランス革命とアメリカ独立革命の対比、ナポレオン戦争と国民国家の理念の普及 c. 教科書に掲載されている産業革命期の地図や図版，都市の人口増を示す表などの諸資料、「独立宣言」「人権宣言」や革命期のおもな党派などの資料、ナポレオンの活動を表現した絵画や図版などを適切に活用している。 d. 次の事柄について基本的な知識を身につけている。 ・産業革命が最初にイギリスに起こった理由、技術革新と交通機関の改良、資本主義体制が世界市場に与えた影響、イギリスの北アメリカ植民地の状況、独立戦争の経過と合衆国憲法の特徴、フランス革命前の社会構造、革命の進展過程、皇帝ナポレオン誕生の背景やその大陸支配の経過について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

二学期	第十一章　欧米における近代国民国家の発展	1．ウィーン体制の成立 2．ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3．南北アメリカの発展 4．19 世紀欧米の文化	○	 ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について、関心を持って学習しようとしている。 ・ウィーン体制の特色と崩壊過程、社会主義思想の成立と普及、ロシアの南下政策と列強の対立、イタリア・ドイツの統一、ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の西部への領土拡大、19 世紀欧米の文芸思潮の変化，近代諸科学や技術の発展 b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・1848 年革命と社会問題、クリミア戦争以後の国際対立とビスマルク外交、イタリア・ドイツの統一と日本の明治維新との比較、環大西洋革命の視点からみたラテンアメリカ独立、アメリカ先住民や奴隷解放後の黒人への抑圧と現在の人種・民族問題との関連、ロマン主義や自然主義などの文芸思潮と自由主義やナショナリズムの進展、近代大都市文化の成立について c. 教科書に掲載されているウィーン会議後のヨーロッパ諸国、イタリアとドイツの統一、ベルリン会議後のバルカン半島の地図、ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領域拡大を示す地図・図版、欧米の美術作品の図版や文学作品などの一覧表などを適切に活用している。 d. 次の事柄について、基本的な知識を身につけている。 ・ウィーン体制の成立と、自由主義とナショナリズムの運動、クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化、ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展、19 世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

二学期	第十二章　アジア諸地域の動揺	１．オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 ２．南アジア・東南アジアの植民地化 ３．東アジアの激動	○	 ○ ○	○	○ ○ ○	a. 次の事柄について意欲的に学習しようとしている。 ・ヨーロッパ勢力の干渉によるオスマン帝国と西アジア地域の変容、ムガル帝国の解体と東南アジアの植民地化、清朝の支配の動揺と、近代化への取り組み、清朝の冊封体制の解体と日本の台頭および東アジアの国際秩序の再編について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・西アジアにおけるイスラームの伝統回帰やアラブ人のナショナリズムの萌芽、インド大反乱の社会的背景やタイの植民地化回避の理由、アヘン戦争後の社会不安と動乱、日本の明治維新と近代化がアジア諸国に与えた影響について c. 教科書に掲載されている19 世紀の西アジアとバルカン半島の地図や図版、インド・東南アジアの植民地化を示す地図、図版や写真、ロシアの東方進出や東アジアへの動向をあらわす地図、諸資料を適切に活用している。 d. 次の事柄について、基本的な知識を身につけている。 ・オスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向、インド・東南アジア諸国の植民地化の過程、ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

三学期	第十三章　帝国主義とアジアの民族運動	１．帝国主義と列強の展開 ２．世界分割と列強対立 ３．アジア諸国の改革と民族運動	 ○ 	 ○	○ 	○ ○ ○	a. 次の事柄について、関心を持って学習しようとしている。 ・欧米列強諸国における国内の緊張の高まり、植民地獲得や勢力圏拡大の競争と列強の二極分化の進展、第一次世界大戦につながる危機、日本を含む帝国主義列強の侵略とアジア諸国における民族運動の形成について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・第２次産業革命と各国の帝国主義の動き、欧米列強の支配による世界の一体化と世界各地の社会の変容に与えた影響、アジア諸地域におけるナショナリズムの運動の展開と現在の国際状況や問題との関連 c.　教科書に掲載されている移民や列強の海外植民地面積の比較図、カリブ海地域やアフリカ・アジア・太平洋地域の関連地図、同盟・協商関係図、東アジアにおける列強の勢力圏を示す地図や図版を活用し，現在に残る影響を把握しようとしている。 d.　次の事柄について、基本的な知識を身につけている。 帝国主義の特質と、欧米列強諸国の国家・社会の変化、欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容、アジア諸国の改革と民族運動の形成について	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

三学期	第十四章　二つの世界大戦	１．第一次世界大戦とロシア革命 ２．ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ３．アジア・アフリカ地域の民族運動 ４．世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ５．第二次世界大戦	 ○ 	 ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について関心をもって学習しようとしている。 ・第一次世界大戦勃発の経緯、戦時外交と総力戦の性格、ソ連邦成立に至るロシア革命の進展、戦間期の国際協調と平和への取り組みの挫折の理由、アジアの民族運動、イタリア・ドイツ・日本のファシズム、第二次世界大戦について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・第一次世界大戦の原因や性格、ロシア革命の世界史的な意義と影響、ヴェルサイユ・ワシントン両体制、干渉国と民族運動の高揚の関係、ファシズム運動、第二次世界大戦の複合的で複雑な性格と戦後の国際社会の方向性との関連について。 c. 教科書に掲載されている第一次世界大戦の関連地図、新兵器などの図版、ドイツ国境を中心としたヨーロッパの地図、ドーズ案後の資本の国際的循環を示す諸資料、1920～30 年代の中国, 第一次世界大戦後の西アジアの地図, 図版・写真など、世界恐慌中の工業生産の推移を示す諸資料、日中戦争の地図、ヨーロッパ戦線や太平洋戦争の地図, 図版・写真などを適切に活用している。 d. 次の事柄について基本的な知識を身につけている。 第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序にもたらした変化、ヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向、アジア・アフリカの民族運動の展開、世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況と, 国際的な緊張の高まり、第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、戦争の惨禍、米ソの国際的地位の高まりについて。	定期考査 授業プリント 発問評価 授業態度

三学期	第十五章　冷戦と第三世界の独立	１．戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 ２．米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ３．第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り ４．石油危機と世界経済の再編	○	○ ○	○	○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について、関心をもって学習しようとしている。 ・冷戦構造、アジア諸地域の独立と建国時の困難、朝鮮戦争後の国際的な緊張・融和、オイル＝ショック以降の先進国の社会変容や新自由主義的改革、途上国の工業化について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 ・東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の「対ソ封じ込め」政策、アジア諸地域の民族運動と干渉国の関係、西欧や日本の経済的な復興や高度成長、第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策、中東戦争の経過、ソ連の改革と冷戦の終結について c. 教科書に掲載されているドイツとベルリンの分割図、第二次世界大戦後のアジア諸地域の独立を示す地図や図版、朝鮮戦争の戦場をあらわす地図、冷戦時代の諸同盟や先進国の経済成長率などの諸資料、図版・写真、中東戦争によるイスラエルの領土拡大をあらわす地図、年表、チェルノブイリ原子力発電所の事故の写真などを、適切に活用している。 d. 次の事柄について基本的な知識を身につけている。 国際連合を柱とした戦後の世界秩序の形成、冷戦体制の確立、アジア諸地域の独立、朝鮮戦争後の「雪どけ」と平和共存への試み、西欧や日本の復興と経済成長、第三世界の連帯の動き、キューバ危機やベトナム戦争、中ソ対立やソ連の東欧諸国に対する介入、西ドイツの東方外交による緊張緩和の進展、オイル＝ショックなど戦後政治の転換期の動向や冷戦終結への取り組みについて	定期考査 授業プリント ワークシート 発問評価 授業態度

三学期	第十六章　現在の世界	１．社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 ２．途上国の民主化と独裁政権の動揺 ３．地域紛争の激化と深刻化する貧困 ４　現代文明の諸相	 ○ ○ ○	○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a. 次の事柄について関心を持って考察しようとしている。 通商の自由化と市場経済の世界化の進展、ラテンアメリカやアジアの途上国における強権支配の後退と民主化の進展、新たな地域紛争の頻発、経済格差や深刻化する貧困問題、情報技術革命や生命科学の進展、環境問題について b. 次の事柄について考察した結果を適切に表現できる。 東欧社会主義圏の解体とソ連邦の消滅の歴史的意味、中国・ベトナムで進む市場開放と工業化の進展とその矛盾、湾岸戦争や対テロ戦争における国際連合の行動と、新たな国際秩序の在り方、地球環境破壊など現代文明の危機、「多文化主義」や「共生」といった思想の意義 c. 教科書に掲載されている独立国家共同体の地図、ヨーロッパ統合の歩み、国内総生産による世界地図などの諸資料、天安門事件の写真、ＰＫＯ派遣の資料や写真などを適切に活用している。インターネットや新聞、図書館などから収集した、国際社会や科学技術の発達がもたらした現代文明の課題に関する資料を、レポートにまとめたり、意見表明を行う。	ワークシート 発問評価 授業態度 発表･討論

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。